

## せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう

「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

(光村図書 「こくご二下 赤とんぼ」)

本単元で育成する資質・能力

思考力・伝え合う力

1 日 時 令和4年 11月18日(金) 3校時

2 学 年 第2学年 男子9名 女子8名 計17名

3 単元について

## (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語科第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕(2)「ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること」及び〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(1)「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」に基づいて設定するものである。

本教材は、「馬のおもちゃの作り方」(読むこと)と、「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(書くこと)の二つの教材で構成されている。前者は、主に馬のおもちゃの作り方を事柄の順序で述べた説明的な文章である。文章の内容に関わる作業手順を順序よく示すことで、作品が出来上がる様子がよく分かるように書かれている。また、どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序も関連させて考えることができる。後者は、前者で学んだ「事柄の順序」という方法を用いて自分なりに説明する文章を書く教材として関連付けられる。そして、学習したことをもとに、自分で作ったおもちゃの説明書を書く活動へと発展させることができる。このように、本教材は手順を示す文章を読み取ることで書き方を学び、そこでの説明の工夫を使って実際に文章を書くことで理解の定着を図ることができると考える。

## (2) 児童観

本学級の児童は、これまでに「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」の学習のような時間的な順序(季節や時刻)に注意して説明的な文章を読んできた。本教材で初めて「手順」という事柄の順序を読む。学習に対しては前向きに取り組み、学ぶ姿勢は高まっているが、叙述を基に自分の言葉で説明したり、時間的な順序や事柄の順序に注目して文章の構成を捉えたりしながら、相手を意識して発言することが難しい児童が多い。

また、日記を書く際に、順序を表す言葉を使って書く活動を行ってきた。繰り返し学習することで、順序良く書いたり話したりすることの大切さを実感しているところである。

## (3) 指導観

指導に当たっては、単元を通して「1年生におもちゃの作り方を説明する文章を書く」という言語活動を設定し、単元のゴールを明確にして学習を進めたい。時間的な順序や事柄の順序に着目することを大切にしていきたい。そこで、単元を通して以下の三つの工夫を行っていく。

① 体験を通して、見通しを持ったり活動のゴールイメージをふくらませたりする活動の充実

実際に文章を読んで、おもちゃを制作する活動を行う。体験することで、伝える文章を書く上で必要になる事柄や、伝える際に必要な順序の役割について気付くことができると考える。

② 生活科の学習と関連させることで、学習意欲を高める活動の工夫

生活科の学習で、自分が作ったおもちゃの作り方を説明した文章を書かせ、1年生に作り方を伝えるという活動を設定することで、相手意識を持って学習に取り組むことができる考える。また、生活科でおもちゃを作る際に図書の本を参考にさせ、その時の経験、実際の説明文の技なども書くときに振り返られるようにする。

③ 叙述を基に、考えを形成する活動の徹底

考えを述べる際に、本文の叙述や写真や図などの情報から根拠を基に説明させる。その活動を通して、必要な事柄を選択したり精査したりして、文章を構成することができる考える。

4 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。  
[知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項ア
- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] B書くこと(1)イ
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] C読むこと(1)ア
- 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとする。  
[学びに向かう力、人間性等]

5 単元の評価規準

おもちゃの作り方が説明された文章を読み、学んだことを生かして書く活動を通した指導 【言語活動例 C(2)ア及びB(2)ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (B(1)イ) 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C(1)ア)	事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

〈評価の具体及び手立て〉

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て
<p>思考・判断・表現</p>	<p>「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「けん玉の作り方」の文しよを、作る人が分かりやすいようにならべかえましょう。 けん玉の作り方 ささきまな</p> <p>〈ざいりようどうぐ〉 ・まつぼっくり・毛糸</p> <p>〈作り方〉 まず、毛糸のはしを… つぎに、毛糸のはんたいがわ… それから、その毛糸を…</p> <p>イラスト</p> <p>二つの紙コップに、じゅんばんにまつぼっくりを入れてあそびます。… どうして、そのじゅんばんにしたのか理ゆうを書きましょう。</p> </div>	<p>・順序を並び替えられない児童には、短い文で提示したり順序を表す言葉に着目できるように印をつけたりする。</p> <p>・順序を並び替えることはできるが、説明ができない児童には、「まず」「つぎに」などの接続詞だけでなく、自分でやってみたり写真と結びつけたりすることで、順序には連続性があることに気付かせる。</p>
	<p>「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ビー玉でころがるおもちゃの作り方 名前○○○○ ビー玉をつかったころがるおもちゃの作り方をせつめいします。 〈ざいりようどうぐ〉 ・ビー玉一つ・色画用紙・はさみ…</p> <p>〈作り方〉 まず、色画用紙を、たて十五センチメートル… つぎに、もう一枚の色画用紙を、たて十センチメートル… それから、切った二まいの色画用紙をかさねて…</p> <p>イラスト</p> <p>さかを作つて、ころがしてあそびます。どこか作つてレースをしても楽しいですよ。</p> <p>〈あそび方〉</p> <p>どうして、そのじゅんばんにしたのか理ゆうを書きましょう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【B 評価】 並び替えができ、どうしてその順番にしたのかという質問に対して、順序を表す言葉を示して説明している。</p> </div> <p>・書けない児童には、最初の一文を短冊に書かせて、並び替えを行い、文の初めに接続詞をつける。</p> <p>・書けない、又は書けるが構成が考えられない児童には、接続詞などのヒントが書かれているワークシートや4つの構成に分けたワークシートを活用して、実態に応じて活動を進められるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【B 評価】 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って説明書を書いている。</p> </div>

6 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
0		○生活科で1年生を招待して「おもちゃランド」を開く。 ・1年生にシールを貼って評価してもらったことで、「作ってみたい」と思っていることを知って意欲につなげる。				
一	1 2	○「馬のおもちゃの作り方」を聞き、馬のおもちゃを読みながら作る。 ・何度も読み返したところや気をつけたところに線を引きながら作る。				
二	3	○学習計画を立てる。 ・作ったときの気づきや課題から、できるようになりたいことを考え、単元のゴールをつかみ、学習の見通しを立てる。				
	4	○文章全体の構成を考える。 ・「前書き」「材料と道具」「作り方」「楽しみ方」の4つのまとまりから文の構成ができていることを確認する。	○			○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（知・技） 【ワークシート・行動観察】
	5	○「作り方」を説明する文章の構成を考える。 ・文章を並び替えることで、事柄の順序の分かる言葉の必要性を捉える。	○			
	6 (本時) 7 8	○説明の工夫を考える。 ・工夫がある場合とない場合のおもちゃの作り方の文章を比較し、工夫の必要性を捉える。				
	9	○「けん玉の作り方」の並び替えをし、構成や工夫などを確認する。		○		

三	10 11 12 13	○選んだおもちゃを説明する文章を書く。 ・見出しごとに短冊に書き、文章の構成をする。 ○書いた文章の見直しをする。	○	○	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(思・判・表) 【ワークシート・行動観察】 ○事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。(主) 【ワークシート・行動観察】
四	14	○完成した文章を読み合っ感想を伝え合い、学習を振り返る。 ・1年生に完成した「おもちゃブック」をプレゼントする。			

## 7 本時の学習指導

### (1) 本時の目標 (6 / 14 時間)

事柄の順序などを考えながら、馬のおもちゃの作り方の工夫に気づき、説明することができる。(思・判・表)

### (2) 準備物

ワークシート

### (3) 本時の内容

時間	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の発言	○指導上の留意点	評価規準
導入 5分	1 既習事項を想起する。 ○馬のおもちゃの作り方はいくつのましまりに分けられましたか。(技①) ・四つに分けられる。(前置き・材料と道具・作り方・楽しみ方)  ○順序を表す言葉は、どこでどのように使われていましたか。(技②) ・作り方を説明するときに、「まず」「つぎに」「それから」という順番で使われている。	・前時の復習をした上で、作り方には説明する中でまだまだたくさんさんの技が隠されていることを伝え、意欲を高めさせる。	
	2 めあてを捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">1年生に分かりやすくつたえるために、〈作り方〉のせつ明をするときのわざ③を見つけよう。</div>	・いくつ見つけられるだろうかと問い、いくつかあることを見通したりたくさん見つけたいという意欲につなげたりする。	

<p>展開 30分</p>	<p>3 馬の体やぶひんを作る部分を音読し、作り方の工夫を考える。</p> <p>○二つの文を比べて、分かりやすいのはどちらですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つ目の文。</li> </ul> <p>○二つの文を比べて、二つ目の文の方が分かりやすいと思ったのはなぜでしょう。</p> <p><b>自力解決→交流→全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4センチメートルという長さを書いてある。</li> <li>・四つという数が入っている。</li> <li>・写真があるからイメージしやすい。</li> <li>・半分という言葉があるから、大きさが分かりやすい。</li> </ul> <p>○一年生に伝えるために、さらに詳しくできそうなところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はこを切る向きを入れるといい。</li> <li>・「半分に」よりも「たて半分に」の方が分かりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明をする時の工夫を考えながら音読をさせる。</li> <li>・説明の工夫が入った文と入っていない文を比べさせて、それらがあると相手に分かりやすく説明できることに気付かせる。</li> <li>・一つ一つの工夫をどうしてあった方が分かりやすいのかを確認しながら進める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生に伝えることを意識できるように、さらに詳しくできそうなところを加える。</li> </ul>	<p>馬のおもちゃの作り方の工夫に気づき、説明することができる。</p> <p>(思・判・表)</p> <p>【ワークシート ・行動観察】</p>
<p>終結 10分</p>	<p>4 まとめをする。</p> <p>○作り方の説明をするときの技には、どんなものがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明するときには、長さや数、写真などを使って詳しく書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の言葉から、見つけた工夫を振り返り、本時のまとめをする。</li> </ul>	
<p>作り方のせつ明をするときには、長さや数、写真などをつかうといい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に書く時をイメージして、使いたい工夫を考えて振り返らせ、書く活動への意欲をもたせる。</li> <li>・まだ、作り方には工夫がありそうなことを伝え、次時にわざ③を増やしたいという意欲を持たせる。</li> </ul>	
	<p>5 ふりかえりをする。</p> <p>○おもちゃの作り方の説明書を書くときに、使ってみたい工夫はありましたか。</p>		

(4) 板書計画

馬のおもちゃの作り方

① 一年生に分かりやすくつたえるために、  
〈作り方〉をせつ明するときの **わざ③**を見つけよう。

〈作り方〉

まず、馬の体やあしになるぶひんを作ります。  
空きばこから切り出しましょう。これが、馬の  
体と馬のあしになります。

分かりやすい

写真

教科書四十一ページ拡大  
長さ、数、大きさなどに傍線

分かりにくい

○もつとくわしく！  
よこむきにおいて切ります。  
・半分にしたて半分に

長さ 四センチメートル  
数 四つ  
しゃしん イメージしやすい  
そのうちの三つ  
のこりの一つ

③ わざ③その一  
作り方のせつ明をするときには、長さや数、写真な  
どをつかうとよい。

8 指導の実際

〈指導上の工夫〉

生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」と関連させ、相手意識をもってゴールを意識して活動に意欲的に取り組むことができるようにした。また、「読むこと」と「書くこと」の複合単元であることから、生活科と関連付けて相手意識を持つことで、読む必然性と書く必然性を児童が自然と感じられるようにした。

〈手立ての具体〉

分かりやすい説明書を書くための、わざを見つけよう。【読むこと(1)ア】

手立て①分かりにくい文章と分かりやすい文章を比較させるためのワークシートを作成する。

(板書)

(児童用ワークシート)

分かりやすい

部品  
写真

教科書四十一ページ  
八行目から十二行目拡大

分かりにくい

作り方

まず、馬の体やあしになるぶひんを作ります。  
空きばこから切り出しましょう。これが、馬の  
体と馬のあしになります。

③ わざ③その一

分かりやすい

部品  
写真

教科書四十一ページ  
八行目から十二行目

分かりにくい

〈作り方〉

まず、馬の体やあしになるぶひんを 作ります。  
空きばこから、切り出しましょう。これが、馬の体  
と馬のあしになります。

馬のおもちゃの作り方 名前( )

わざを使って、1年生に伝わる説明書を書こう。【書くこと(1)イ】

手立て②見つけたわざを基に、「けん玉の作り方」の文章の並べ替えを行い、構成や工夫などの必要性を確認する時間を確保する。

(児童用ワークシート)

手立て③順序を意識して最後まで書き切ることができるように、事柄ごとに短冊を作成する。

(児童用ワークシート：構成)

(児童用ワークシート：清書用短冊)

前書き・あそび方用

作り方用

イラスト用



〈評価の実際〉

①順序を表す言葉に注目して、説明的な文章のまとまりを手順に沿って並び替えることができる。

(読むこと(1)ア)

【B 評価】

並び替えができ、どうしてその順番にしたのかという質問に対して、順序を表す言葉を示して説明することができている。

The image shows a handwritten student response on the left and a diagram of a book's structure on the right. The student's response is written in red ink and includes the following text: 「どうしてこのじゅん番にしたのか理由を書きました。なんとなくではなくて、じゅんじよをあらわすことばや、絵を見てはんだんしました。「さいしょに」「まず」と紙や「つぎに」「それから」「できあがりです。」が書いてあるところからはんだんしました。あと、じゅん番が絵と同じだからです。」 The diagram on the right is titled 「けん玉の作り方」 (How to make a top) and is divided into sections: 「イラスト①」 (Illustration 1), 「イラスト②」 (Illustration 2), 「イラスト③」 (Illustration 3), and 「作り方」 (How to make). The 「作り方」 section is further divided into four paragraphs: 「教科書 四十八ページ本文 作り方 一段落」, 「教科書 四十八ページ本文 作り方 二段落」, 「教科書 四十八ページ本文 作り方 三段落」, and 「教科書 四十八ページ本文 作り方 四段落」. The student's response is written over the diagram, with red lines connecting the text to the corresponding parts of the diagram.

なんとなくではなくて、じゅんじよをあらわすことばや、絵を見てはんだんしました。「さいしょに」「まず」と紙や「つぎに」「それから」「できあがりです。」が書いてあるところからはんだんしました。あと、じゅん番が絵と同じだからです。

「おおむね満足できる」状況(B)以上と評価した児童は9割であった。

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

(書くこと(1)イ)

### 【B 評価】

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って説明書を書いている。

ストローをつかったひこうきの作り方を説明します。  
〈ざいりょうとどうぐ〉  
・ストロー一本  
・セロハンテープ  
・色画用紙(すきな色)  
・カラーテープ(すきな色)

〈作り方〉  
まず、ストローのはし、ここにカラーテープを五回ままつけます。  
つぎに、色画用紙をしんの形に切ります。  
それから、ストローに切った上のよくな色画用紙をセロハンテープではりつけます。  
さい後に、もう一つの切った色画用紙をストローのカラーテープをまいてないほうのはしにセロハンテープではりつけていきます。

〈楽しみ方〉  
ひこうきのカラーテープがはいてあるところをもって、とばしてあそびます。

順序を表す言葉を使って、事柄の順序に沿って説明文を書くことができている。

「5回巻くとよく飛んだから、回数を書くと分かりやすいな。」(児童の発言)

### 【A 評価】

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って詳しく説明書を書くことができている。

ぎょうこうパックをつかった車の作り方を説明します。  
〈ざいりょうとどうぐ〉  
・ぎょうこうパック(ありはし一本、じしん二つ)  
・セロハンテープ、色画用紙、ペットボトルのキャップ四つ  
・マジック(二本、きり)

〈作り方〉  
まず、ぎょうこうパックの前後にきりてあなを四つあけ、ペットボトルのキャップのまんなかにきりてあなをあけます。  
つぎにそのペットボトルのキャップにあなをなにくしをおします。そして、マジックをあなをあけたペットボトルのキャップをぎょうこうパックにセロハンテープでしっかりとめます。  
それから、ぎょうこうパックの後にじしん二つ、セロハンテープできりてあなを四つあけ、マジックをあなをあけたペットボトルのキャップのまんなかにきりてあなをあけます。  
つぎにそのペットボトルのキャップにあなをなにくしをおします。そして、マジックをあなをあけたペットボトルのキャップをぎょうこうパックにセロハンテープでしっかりとめます。  
さい後に、すきなよつに色画用紙をひたしてマジックで絵をかいていきます。

〈あそび方〉  
先にじしんがついたおしりはおすとすすみます。ししんをしてあそびますよ。

順序を表す言葉を使って、事柄の順序に沿って詳しく説明文を書いている。また、1年生に伝えるために、イラストに短い言葉で説明を書いたり、読み仮名を付けたりするなど工夫を付け足している。

「イラストに短い言葉で説明を書くと分かりやすいね。」「漢字に読み仮名を付けると1年生でも読むことができそうだね。」(児童の発言)

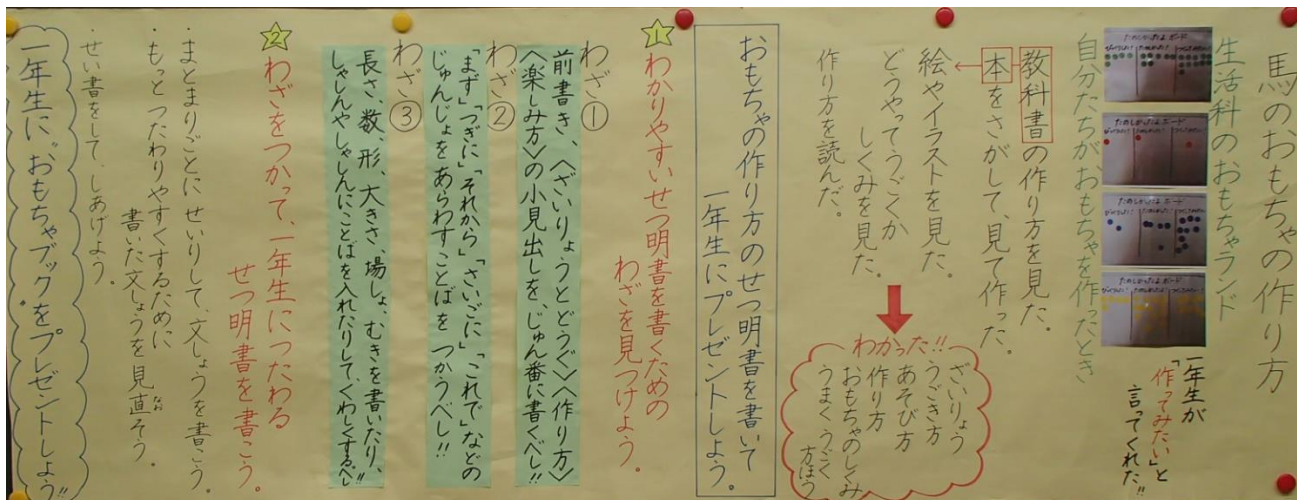
「おおむね満足できる」状況(B)以上と評価した児童は9割であった。

## 〈成果と課題〉

### 【成果】

成果1：相手意識を持つことで、伝えるための説明書を書くことができた。

→生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」と関連させることで、相手意識を持ち、常にゴール（おもちゃの作り方の説明書をプレゼントすること）を意識することができた。読む必然性、書く必然性が生まれた。



成果2：より分かりやすい説明書にするために、工夫を加えようとしていた。

→分かりにくい文章と分かりやすい文章（教科書本文）を比較させることにより、工夫のよさに木がつく児童が多かった。書くときには、どんどん工夫を付け加える姿が見られた。

（児童が付け加えた工夫：1年生が読みやすいように読み仮名をつける、イラストに短い言葉で説明を書く等）

成果3：事柄の順序を意識した文章を書くことができた。

→事柄ごとにワークシートを分けることによって、書くことに課題がある児童も順序を意識して最後まで書き切ることができた。

### 【課題】

課題1：時間的な計画の必要性。

生活科と関連付けたことにより、長時間に渡る単元計画となった。そのため、事前にもっと綿密な計画が必要であった。計画が十分であればもっとテンポよくできた。

→生活科と国語科それぞれで付けたい力をしっかりと達成させるために、スタートとゴールの時間的な計画をしっかりとする。

課題2：文章の見直し・修正の習慣を身に付ける。

実態に応じて、事柄ごとの短冊に説明を書いていくワークシートを準備したが、自分の書いた文章を見直し、修正することが難しい児童がいた。長文になると、さらに困難である。

→日頃から日記や作文等を書くときに、相手意識を持って、自分の書いた文章を見直したり修正したりする習慣を身に付けさせる学習を継続して行っていく。